

市民大学事業再構築の方向性について②

1 現在の市民大学事業の目的（第2回運営協議会「資料 1-1」の記載を再掲）

市民大学事業は、市民が主体的かつ継続的に学習することを通じて、まちづくりに欠くことのできない市民力の創出を目的として、「あなたを励まし、地域を育てる」を基本理念に実施している学習事業である。

4つの学習領域（※1）の頭文字を取り、市民大学の愛称名を「H A T S」としている。H A T Sの名称には、市民大学で多くの市民が「学びの中で何かにハッと気がついて」もらえるようにという意味が込められている。

※1 Humanity（人間性）、Art & Literature（芸術及び文芸）、Technology&Science（技術及び科学）、Sports & Health（スポーツ及び健康）

2 整理が必要な内容（第2回運営協議会「資料 1-1」の記載を再掲）

（ア）まちだ市民大学H A T Sの事業目的の整理、事業目的に沿ったプログラムの方向性の検討

市民大学事業は、開校から30年以上、制度の見直しをしておらず、2012年から生涯学習センターの事業の一つとなったこともあり、制度の目的・内容と実態に乖離が生じている状況にある。生涯学習センターの他の講座事業との棲み分けも曖昧になっており、市民大学の現況を確認した上で、時代に即した市民大学事業となるよう事業の目的やプログラムの方向性を検証、整理する必要がある。

イ）市民ニーズを収集する仕組みの検討

市民意見を収集し、プログラムに反映するための「プログラム委員制度」について、委員の硬直化など制度疲労を起こしている面もあり、市民意見の収集方法やプログラム委員と職員の役割分担についての検証、整理する必要がある。

ウ）人材育成に係る取り組みの検討

市民大学の修了生の活動については、創設当初から自主サークル化、団体結成を主眼としており、実際に多くの修了生団体が結成されてきた。ただし、現在は受講者の意識変化や高齢化等もあり、結成される団体数は減少傾向にある。一方で、学校のコミュニティスクール化や、町内会・自治会をはじめとする地域団体などの組織率の低下もあり、地域の担い手不足の解消が課題となっている。こうした状況下で、市民大学における人材育成はどのようにあるべきかについても検討する必要がある。

3 市民大学の現況

（1）2023年度事業の実施概要等

資料 2-2「2023年度まちだ市民大学H A T S実施概要及びアンケート結果」のとおり

(2) 2024 年度事業（前期）の実施概要等

資料 2-2 「2024 年度まちだ市民大学 H A T S （前期）実施概要及びアンケート結果」のとお

(3) 2024 年度事業（前期）の実施結果のまとめ

①「役割 1：学びの裾野を広げる」に位置付けた講座

- ・各講座の参加者数は、大きく減少した健康学以外は、概ね前年同様であったが、定員を拡充した分、多くの欠員が生じた。
- ・アンケートの結果、講座の満足度は高かったが、これまでも参加経験がある受講者からは、回数が減少したことに対する不満の声もあった。

②「役割 3：学びを深め、活かす」に位置付けた講座

- ・当初から想定していたことではあるが、2023 年度までの講座と比較して参加のハードルが高くなったことから、環境講座、福祉講座共に申込者数が減少した。その一方、新規受講者の割合が増加した。
- ・福祉講座は、対象者を大きく変えたことから、「初めから（学んだことを）活かしたいと思って参加していない」という意見があった一方、自分が持っているスキルを活かすための視野が広がり、どのように活かせるかが具体的にもあったといった趣旨の意見もあった。

4 現在の事業目的に対する課題

(1) 基本理念について

「あなたを励まし、地域を育てる」という基本理念について、市民大学の開講当初は、修了生の活動として自主サークル化や団体結成を促すことで、「地域を育てる」型の講座を意識した講座づくりを行っていた。ただし、開講から 30 年以上の歳月を経る中で、次第に受講者の意識変化や高齢化等により、自主サークル化や団体結成が困難になっていった。

その一方で、来館者数や受講者数といった成果指標の向上を重視し、人気が高い教養型の「あなたを励ます」型の講座を中心に企画することもあった。

その結果、現在は「地域を育てる」型の講座は十分に行うことができおらず、特に 2023 年度までの講座の構成と基本理念に乖離が生じている。そのため、基本理念を見直す必要があるか検討が必要である。

(2) 学習領域について

「H A T S」という 4 つの学習領域に配慮して、現在の 7 つのテーマの講座を実施しているが、現在実施しているテーマの中には、基本理念のうち「地域を育てる」型の講座に発展させることが難しい講座も存在している。そのため、学習領域および学習領域

と講座の位置付けについて、見直す必要があるか検討が必要である。

5 事業目的及びプログラムの方向性（案）

市民大学事業は、単一事業の中で学びのきっかけづくりから人材育成までを想定して考えられた設立当初とは状況が異なり、現在は様々な学習事業を行っている生涯学習センターの一事業として実施している。そのため、たとえば教養型の講座は生涯学習センター事業として実施し、人材育成型の講座を市民大学事業に集約するなど、市民大学の設立当初よりも柔軟な考え方でプログラムの方向性を検討することが可能となっている。

	案1	案2	案3
プログラムの方向性	市民ニーズを重視し、「あなたを励ます」型の講座を軸に据える。 「地域を育てる」型の講座は年度ごとに実施の可否を検討する（実施を必須にはしない）。	「地域を育てる」型の講座を軸に据え、「あなたを励ます」型の講座は「地域を育てる」型の講座につながるもののみを取り扱う。	「地域を育てる」型の講座のみを実施する。 「あなたを励ます」型の講座は他の生涯学習センター講座として取り扱う。
メリット	・（特に現在の受講者の）市民ニーズに応えることができ、受講者の増加が見込める。	・現在の基本理念に合致するかたちで実施することができる。 ・見直し実行計画の方向性に合致する。	・生涯学習センター事業との役割を明確にすることで、資源（ヒト・カネ）の最適化を行うことができる。 ・見直し実行計画の方向性に合致する。
デメリット	・生涯学習センター事業との差別化が困難。 ・見直し実行計画の方向性に反する。	・「地域を育てる」型の講座は、現時点では市民ニーズが高くないため、受講者が減少することが予想される。	・現時点では市民ニーズが高くないため、受講者が減少することが予想される。
必要な対応	・プログラムの方向性に合致するよう基本理念を見直し	・学習領域および学習領域と講座の位置付けを見直し	・プログラムの方向性に合致するよう基本理念を見直し ・学習領域および学習領域と講座の位置付けを見直し